

本日の内容

1. 第1回選書図書に対する意見交換
2. 図書館からのお知らせ

1. 第1回選書推薦図書一覧

No.	書名
1	ヘルスリテラシー
2	麻酔の偉人たち
3	ゲノム医学
4	メカ屋のための脳科学入門
5	人工知能時代の医療と医学教育
6	Systems Biology
7	アルツハイマー病の謎を解く

No.	推薦理由(上段)・意見交換の記録(下段)
1	<p>健康情報や医療ビッグデータを正しく読み解くことに必要な知識を、医療者として啓発していくことの重要性を教員と議論する中で、現役の医療者だけではなく学生にも有益となるヘルスリテラシーの図書としてオススメしていただいたため、推薦いたします。</p> <p>・「健康教育」や「ヘルスリテラシー」にもともと興味があつて読む本なのか、こうした分野に初めて触れる人でも読み進むことができる本なのかについてレビューで触れてもよいのではないか。 ・分野全体を概観しているような内容なので、レビューで全てに触れるのではなく興味のあるポイントを掘り下げるのも有りだと思ふ。</p>
2	<p>新書(2016年出版)であり医学書として内容がシンプルにまとまって読みやすいからです。具体的には医学史や麻酔科を学ぶ時や臨床病棟実習(私が学生の頃は”ポリクリ”と呼ばれていました)の時に目にする医療器具の名前(スワンガンツ、アプガー、マギル、ジャクソン・リース、マッキントッシュなど)が、偉人の名前に由来されていることを知る本として一冊によくまとまっています。偉人一人一人が一つの項目としてシンプル(3ページ程度)に解説されているために理解もしやすく、勉強の励みになるからです。国内からは華岡青洲(世界初の全身麻酔)と青柳卓雄(パルスオキシメーター開発)が掲載されていて、国内外の偉人の軌跡を身近に感じることもできます。</p> <p>・麻酔の歴史や麻酔の勉強に関心のある人でなくても読みやすい内容や構成なのかどうかを知りたい。 ・取り上げられている人物のうち特に面白いと思った人物に注目した書き方もできると思ふ。</p>

No.	推薦理由(上段)・意見交換の記録(下段)
3	<p>やっぱり京大医学部といえばiPS細胞、ゲノム治療、山中教授です。京大医学図書館に最新のゲノムに関する書籍を購入しておくことは京大の財産(社会の責任)だと思います。ヒトの分子遺伝学(MEDSI)や細胞の分子生物学(ニュートプレス)といった超ロングセラーと共に、今年(2016年)出版された新書として是非選書していただきたいと思います。カラーの図が分かりやすく、遺伝子学の基礎から、臨床(ゲノム医療)まで網羅されており、ロングセラー書と並行する“入門教科書”として選書する価値があると思います。</p> <p>・この分野の他の教科書類と比較して、良い点を取り上げるような書き方ができそう。 ・単に山中先生のお名前を出すだけでなく、本の内容からどのような形で結びつくのかまでをレビューに含められるといいアピールになりそう。</p>
4	<p>この本は確かに「メカ屋のため」であり、著者自身は工学部出身である。しかし同時に、この本は「脳科学入門」として医学を扱っており、その中身は医療系学生にとって非常に勉強になる。境界分野で研究したい人がいるなら尚更だろう。耳小骨をインピーダンス変換器と説明する指定教科書は他にないと考え、この本を推薦します。</p> <p>・医学のとっつきにくい内容を工学の目線で書くという本。こういう本を医学の目線で読んでレビューするという図式。視点が独特で面白い内容になりそう。 ・医学で同じ内容を学ぶ時とは違って、数式を豊富に使って説明している点が面白い。 ・コラムも一つ一つが独特な内容なので、掘り下げられるポイントはたくさんあると思う。</p>
5	<p>人工知能や情報技術の発展で医療はどのように変わって、もしくは変えられていくのか、京大病院医療情報企画部の黒田教授をはじめとした、データベース、遠隔医療、医学教育、チーム医療などに関する医療情報の専門家16名の寄稿をまとめた本です。情報技術で可能になることだけではなく、情報化された医療において、医師に求められるであろう能力についても非常に多くの考察がされています。これからの医療を支えていく医学生にとって有用な情報だと考え推薦します。</p> <p>・AIが医者仕事を将来奪うのではという話もある。 ・人工知能の時代に医者の仕事がどのように変わるのかという問題意識の下、医学教育関係者以外でも読める内容になっている。 ・外部の社会の動きと実際の本の内容を絡めた内容のレビューを書くことができそう。</p>
6	<p>本書は、生命現象の数理モデル化について書かれた書籍です。数理モデル化することで、複雑な生命現象は統合的に理解されるようになります。このような俯瞰的な視点は、医学・生命科学に関わる人々にとって重要であると思われます。また、生命現象の数理モデル化に関する書籍は多くありますが、このような特に進展の早い分野では、できるだけ新しいものが望まれます。本書は2016年6月に出版された新しいものです。以上の理由から、本書を推薦します。</p> <p>・「システム生物学」分野の古典と読み比べるとどうかという点に触れてもらえると、最新の知見が含まれた本であるというポイントが際立つと思う。 ・医学部の学生にとって、この分野はお馴染みの分野なのかそうでないのかによってレビューのアプローチが変わってくるかもしれない。</p>
7	<p>本書は、認知症の基礎疾患で第1位を占めるアルツハイマー病の知見について、Aβを軸として(2010年時点ではありますが)網羅的に述べられています。アルツハイマー病発症にはAβとtauの2つのタンパク質が関与していますが、そのタンパク質の動態・挙動を研究をしている著者の岩田氏、西道氏はschemaを多く活用しており、疾患の細胞生物学的・生化学的な流れが視覚的に理解しやすくなっています。本書はすでに図書館に所蔵されていますが、アルツハイマー病を基礎医学的観点から理解するには非常に有益な一冊だと思いますので推薦致します。</p> <p>・tauタンパク質に関する内容に言及されていない点でこの分野を完全には網羅していない。 ・1章に関しては敷居が低いものの2章以降はある程度勉強した人向けの内容に見える。 ・やや出版年が古くても内容は現在の内容に古びていないのであればアピールポイントになるのでは。</p>

2. 図書館からのお知らせ

・第2回選書(第3回ミーティング)のスケジュールについて

⇒ 年明けまでは第1回選書分のレビューに集中し、1月中旬以降に開催することになった。
次回以降のミーティングは学生会館または医学図書館で実施することになった。

・医学図書館Webサイト上への選書図書リストの掲載について

⇒ 外部へのアピール、進捗状況の把握の両面で有用であることから、選書図書リストを医学図書館Webサイトへ掲載することになった。